

◆巻 頭 言◆

環境研の課題はいずこに・・・

岡山県環境保健センター所長 岸本 壽 男



平成29年4月から全国環境研協議会会長を務めることになりました岡山県環境保健センターの岸本です。微力ではありますが本協議会の活動が充実発展するよう一所懸命取り組みますので、全国の環境研の皆様、ご協力・ご指導のほどよろしく願いいたします。

さて、岡山県では平成29年3月に「新岡山環境基本計画」の第2次改訂を行い重点プログラムを計画期間の最終年度に向けて見直しを行いました。

すべての県民が明るい笑顔で暮らす「生き生き岡山」と「よりよい環境に恵まれた持続可能な社会」の実現に向け、県民が取り組むべき指針が示されました。

地域での環境課題を克服するため、行政機関だけでなく事業者、県民あがりの取り組みを大いに期待するものです。

さて、近年の地球環境問題の深刻さはますます切迫しており、温暖化の進行による集中豪雨や大型台風の発生など異常気象による被害は全国で起こっています。この問題への対応は地方自治体としても急務なものと考えます。本県においても気温の上昇は顕著であり、県内の二酸化炭素排出量削減を目指し、省エネ型のライフスタイル定着を目指して普及啓発事業を展開しております。当センターとしても何か取り組むことが出来ないか、模索中であります。

ところで、本県における光化学オキシダントの発生は平成20年頃から発令回数が増加しております。これは大陸からの移流の影響や温暖化による夏季の気温上昇の影響などに起因していると考えられますが、当センターでは一般環境及びテレメーター接続事業場の常時監視を行うとともにオキシダント注意報の発令を行っており、夏期対策期間中は休日も交代で監視を行っております。

PM2.5については、県内のほとんどの測定局で環境基準を超過しており、全国と比較しても高濃度な状況であります。濃度変動の要因や発生源等の状況を把握するに至ってはいないため、当センターでは、PM2.5の実態を詳細に調査し、地域ごとの発生源別寄与割合を推定する等によって、時間的・地域的な特質の把握を進め、発生源対策の一助とするため鋭意努力しております。

また、指定湖沼である児島湖については、昭和61年度から6期にわたり湖沼水質保全計画に基づき、下水道整備などによる生活排水対策や工場事業場の上乗せ排水規制などの各種施策を推進し、水質は近年緩やかな改善傾向にあるが未だ環境基準は達成されていません。平成29年3月に第7期湖沼水質保全計画を策定し、引き続き環境保全対策を推進することとしたところです。

COD、全窒素濃度は汚濁負荷量削減と同調して低下していますが、全リン濃度は、汚濁負荷量削減率ほどには低下していない状況にあります。

そこで、児島湖の水質汚濁メカニズムのさらなる解明に向け、流入河川のうち水質改善の遅い倉敷川について、その流域の支流や用水路の水質、水量、底泥の状況などを現在詳細に調査しているところです。

緊急時の対応として、河川への油の流出などの水質汚濁事象や魚類の斃死時の水質検査は不定期に年間20から30件程度あります。近年では、土壤汚染発覚時の周辺地下水等の水質検査も増加しており、ますます迅速な対応、体制整備が求められています。

このため当センターでは、農薬類の一斉分析法の開発や緊急時連絡網の整備、検査者のスキルアップの研修なども行っているところです。

地域での環境課題の対応として調査研究を実施するのみならず、試験検査の信頼性確保の向上、研究成果の県民へのフィードバックなど環境研としての課題や役割は多大なものとなっております。

しかしながら、環境研を取り巻く環境は大変厳しくなっており、人員、予算の削減により調査研究を支える人材の確保・育成がままならない現実はありますが、これまで培われた調査研究の志を大切に、コンパクトな研究所なりに創意工夫を凝らし、環境研としての役割を果たしていきたいと思っております。

特にシンクタンク機能の充実、長年にわたる環境モニタリングや調査研究の知見により科学的な側面からの政策提言を行うことで行政の施策立案に役立つことが最重要課題だと考えております。